

令和2年度 中央区立阪本小学校		外部評価報告書	
外部評価委員：安西 暉之 山田 和雄 坂間 政利 今野 克彦 江本 良雄 塚越さとみ 本橋 慶子 田村 俊夫 (敬称略)			
報告書作成者：株本 光子			
評価時期 令和3年2月			
<b>1 重点目標の評価</b>			
<b>重点目標1「自ら考え共に学ぶ子どもの育成」</b>			
<p>評価指標に、「自分から課題をもち、友達と協力して学習に取り組んでいる」の保護者の回答90%以上と示して取り組んだ。結果は、76%の保護者が肯定的評価であった。28名24%の保護者がそうではないとの意見を伝えた。本校の学校評価のよさの一つは、数値の意味を、教職員の実践から良さと問題点を整理し、次年度の改善策を見出そうとした点にある。そのため、評価項目、評価指標の関連を明確にした。この考え方を生かすために、教務部等の組織で原因を明らかにし、今年度の取組の良さと、来年度の改善策を具体的に示すことが学校の役割である。評価は、「プラス」、「マイナス」、「分からない」等も含めて、学校への力強い応援である。</p>			
<b>重点目標2「温かい人間関係を育む教育の充実」</b>			
<p>100%の教員が、「交流などの活動」「挨拶・返事の励行」「お互いを認め合えるような実践」を実施したと回答している。本校は、評価指標に、児童と保護者のアンケート結果を設定し取り組んだ。結果、88%の児童が、「挨拶は元気よくしている」、97%の児童が「友達と仲良く生活している」、85%の保護者が「道徳等の授業を通して、相手の話をじっくり聞く態度が育っている」と肯定的に回答し、ほぼ評価指標を実現した。</p> <p>一方、29%の児童が「先生が悩みなどについて話しやすい」、10%の保護者が「学校は、児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談に乗ったり指導したりしている。」に「そうではない」と回答した。この結果を受け、すべての子供が相談できる体制を直ちに整える必要がある。</p> <p>今後、分析に当たっては、「そうではない」の回答が1人であっても、直ちに改善を要する項目があることを理解しておいていただきたい。</p> <p>このように、問題点を数値が伝えたのは、重点目標の作成に当たり、アンケートの評価指標、評価項目の関係を理解し、作成、実施したからである。次年度へも継承していただきたい。</p>			
<b>重点目標3「地域の特性を生かした特色ある教育活動の推進」</b>			
<p>本校の保護者、地域にとって、この項目は大切である。言葉だけでなく、実際に見聞きし、納得するのであろう。コロナ禍でそれが叶わない一年であったと自由記述から伝わってきた。</p> <p>地域の特色を生かした教育活動は、児童のどんな力を育成するかを保護者、地域の方々が理解できるようにすることである。そのためにも、教職員、保護者、地域の方々に分かりやすく説明したりともに話し合ったりしながら、取り組むことが一層大切になる。</p>			
<b>2 今後の改善に向けた意見</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「アンケートの回収率が、7%昨年から増加した。これはアンケートの質問が変わり保護者が答えやすくなったと考える。」という地域の声がある。さらに、様々な工夫によって、保護者から回答率を100%に近づけるよう努力していただきたい。</li> <li>○ 保護者も地域の方も学校への協力を惜しまないという声が多く寄せられている。そのためにも学校は、「プログラミング的思考」「学びの質を変えると」等の言葉を、教師の願い、目指す児童の姿、教員が取り組むこと、保護者に協力いただくことなどの視点から分かりやすく伝えようにする。</li> <li>○ 11月の第2回の学校評議員会では、校長先生をはじめ、各主任が児童の目指す姿、教職員の取組を振り返り、成果と課題を整理した。さらに、11月以降の教育活動の改善策を分かりやすく説明した。教育の質を向上させ、目指す子供に育てるため学校の力を感じた。次年度の阪本小学校に期待が大きくなった。</li> </ul>			
<b>3 その他</b>			
<p>アンケート結果だけでなく、学力調査結果、体力の調査結果など重点目標に関わるデータを活用すると、多面的に教育活動を評価・分析することができる。</p>			